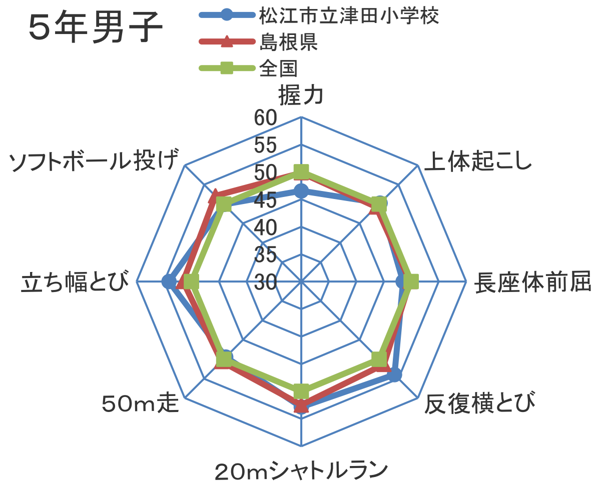
【資料1】

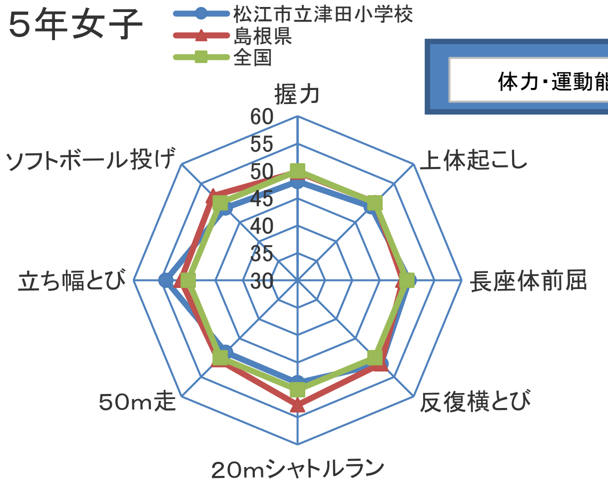
令和3年度　体力・運動能力調査結果及び分析・対策

令和4年3月29日

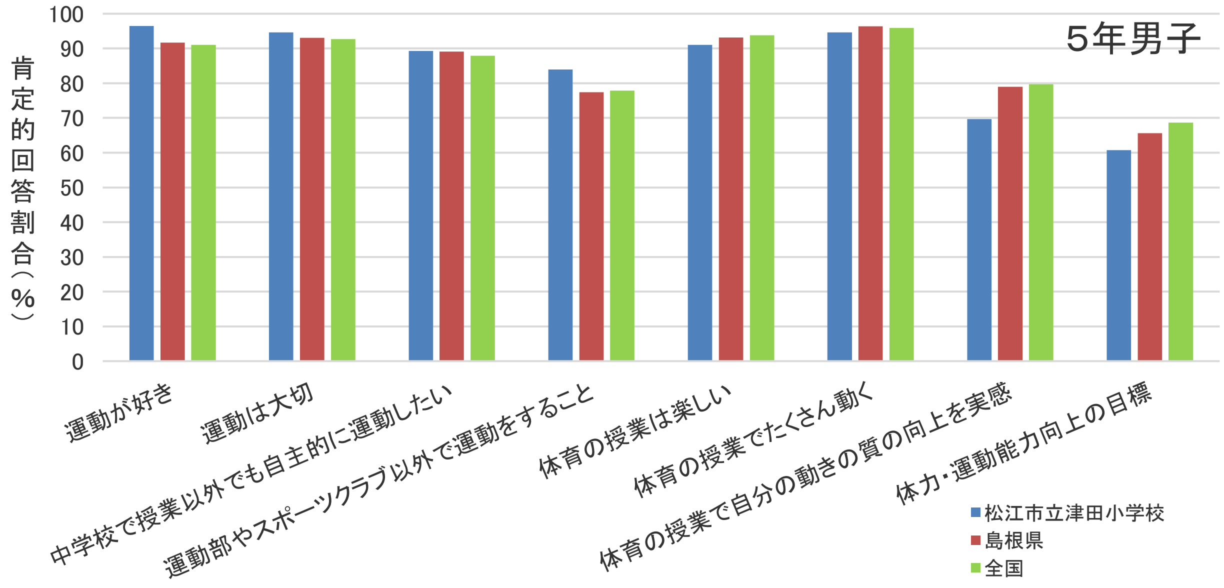
松江市立津田小学校

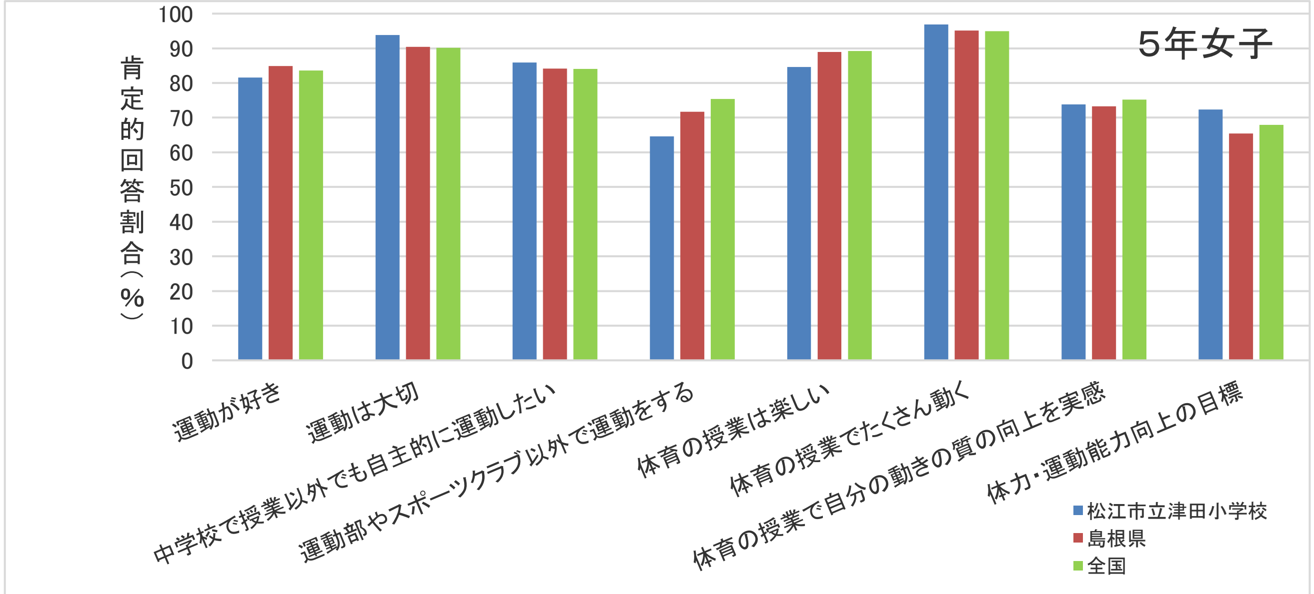
（1）令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（全国平均を50としたときの比較）





全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
（体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています）





（2）調査結果の分析

体力・運動能力面

①体力・運動能力面

強み

〇男子では「立ち幅とび」「反復横とび」が全国平均を上回っている。「跳躍力」「敏捷性」が強みである。
〇女子では「立ち幅とび」が全国平均を上回っている。「跳躍力」が強みである。

課題

●男子では「握力」「長座体前屈」が全国平均を下回り、「筋力」「柔軟性」が課題である。
●女子では「握力」「50m走」において全国平均を下回り、特に「筋力」が課題。

次年度の対策

〇体育の授業の開始時に、遊具にぶら下がる運動（握力の向上）や柔軟性を高める運動を継続的に取り入れる。
〇朝のミニトレーニングは、全校で継続して取り組んでいく。
〇体育授業に8秒間走が行いやすい環境（音楽・スピーカー・ライン等）を整え、走力を高める授業を行う。

意識面

②意識面

強み

〇男子では「運動が好き」の割合が全国平均よりも高い。
〇女子では「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも高い。

課題

●男子では「自分の動きの質の向上を実感」の割合が全国平均よりも低い。
●女子では「運動部やスポーツクラブ以外で運動をすること」の割合が全国平均よりも低い。

次年度の対策

〇タブレット等ICT機器を活用し、児童が動きの向上を実感できるようにしていく。
〇男子だけでなく、女子も休み時間の外遊びが増えるよう、学級遊びの取り組みなどを行う。
〇引き続き一人ひとりが自分のめあてを持って取り組めるよう授業や体力つくりを工夫する。

（3）令和4年度の方針【学校全体での取組】

①体力向上や体育授業に関する校内研修会等の計画について
・日常の体育授業を見せ合い、授業力の向上に努める。
・校内での研修会等を行ったり、教具作りを共同で行うなどして、運動が不得意な児童が意欲を持って授業に取り組むことができるようにする。

②体育科授業の工夫・改善について
・授業の開始時の約束を決め、児童が主運動に取り組むための心と体の準備ができるようにする。（年度初めに確認する）
・音楽等を使って効率的に運動に取り組み、運動量を確保できるように体育館や校庭の設備を整える。
・なわとびの指導法の講習会を冬を迎える前に行う。

③体育授業以外の活動の工夫について
・児童会活動と連携（スポーツ委員会のスポーツ大会等）し、全校が運動に親しめるようにする。

④家庭・地域、近隣の学校・園等との連携、情報発信について
・なわとびカードなど、家庭でも取り組めるものを工夫し、学校と家庭が連携して体力作りに取り組むことができるようにする。
・生活習慣の確立、食育が推進されるように、学校から積極的に情報発信していく。